
2月が終わる日、その雨の温度

浮羽ゆう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2月が終わる日、その雨の温度

【Nコード】

N0220K

【作者名】

浮羽ゆう

【あらすじ】

具体的な写実で、抽象的な精神を描いてみようと思いましたが、ジャスト400文字。

2月の終りに降る雨は、その季節を柔らげる。

寒波に凝り固まった団地のコンクリート壁が、温度に侵食されてゆく。

ボクは水色の傘をさし、いつも見かけるが実際には何も知らない顔ぶれが並ぶ人の群れに迎え入れられ駅へと進む。

歩きながらコートポケットからケータイを取り出す。

3.2インチのモニターに並ぶ文字は、トモダチから届いた昨晚のメール。

「どうして？　そういう意味じゃないんだよ？」

その文字を何度か目で追い、最後にため息を一つだけついてケータイを閉じた。

気がつけば、吐き出す息はもう白くはならない。

ここ2、3日で風向きも変わった。

わかっている。怯えているんだ。

南風はいつでも背中側から吹きはじめる。

雨音の中で一瞬漂う、枝葉の隙間を通った色の付いた香り。

きっと一週間もしないうちに目の前の風景はガラリと変わるんだ。

ボクはただ、そんな春の気配に怯えながら、今の冷たさが居心地よくて、冬の記憶をポケットに保留し続ける。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0220k/>

2月が終わる日、その雨の温度

2011年1月15日23時10分発行